;゜Д゜キョトン

Bewilderment

テーマ

野外×アート×まちなか

トロールの森2020

/´Д`　;゜◇゜　･ω･　゜⊿゜;　◎o◎

野外×アート×まちなか

トロールの森2020

テーマ キョトン Bewilderment

2020.11.3火・祝 – 11.23月・祝

都立善福寺公園（上池）
杉並区立桃井第四小学校
西荻窪～善福寺周辺店舗・ギャラリー

主催　トロールの森 実行委員会
後援　東京都東部公園緑地事務所
　　杉並区
　　杉並区教育委員会
協力　都立善福寺公園
　　杉並区立桃四コミュニティスクール
　　関東バス株式会社
　　JR西荻窪駅
　　Daily Table KINOKUNIYA 西荻窪駅店
　　遊工房アートスペース
　　ゆうゆう善福寺館
助成　企業メセナ協議会 助成認定活動
　　公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京
　　杉並区新しい芸術鑑賞様式助成事業

【助成】 ARTS COUNCIL TOKYO　Mécénat 企業メセナ協議会助成認定活動
【協力】 なみじゃない、杉並！ 中央線あるある PROJECT

キョトン

「トロールの森」は杉並区の都立善福寺公園を舞台に2002年にスタートした国際野外アート展です。2013年からはJR西荻窪周辺へとエリアを拡大し、多彩なアートを展開してきました。2020年のテーマは「キョトン Bewilderment 」。現代アートは、ときとしてキョトンの連続。でも、検索ですぐに答えにたどりつくような分かりやすさが大手を振って歩いているような今の時代、「！」「？」「‥‥」に出合って、頭が一瞬空白になることって、意外に大事かも。11月の3週間、ポップなキョトン、不穏なキョトン、壮大なキョトン、ひそやかなキョトンがあなたを待っています！

Bewilderment

Contemporary art can sometimes cause ceaseless bewilderment. But in an age where answers are soon reached by searching online and comprehensibility triumphs, perhaps what is important, strangely enough, is to encounter surprise, doubt or confusion that momentarily causes the mind to go blank. Eccentric, perplexing, magnificent and mysterious bewilderment is waiting for you!

野外×アート（都立善福寺公園）　Open Air Exhibition

野外ならではのダイナミックな作品や自然を背景にしたパフォーマンス、公園の秋の深まりとともに表情を変えるインスタレーションに注目！

Keep a look out for dynamic works of art and performances befitting the park setting, and installations that alter their expression together with the deepening autumn colors!

空間展示

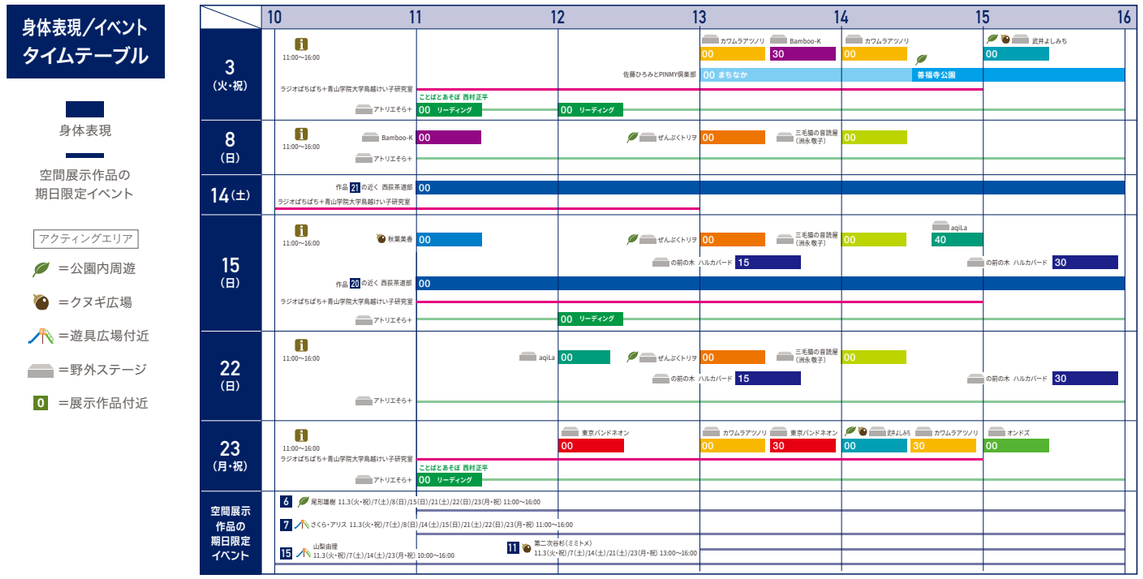
P03 1 黒野 裕一郎
2 竹厚 桂子
P04 3 武蔵野大学 水谷俊博研究室
4 中尾 紫香
P05 5 宮嵜 浩（ボムライ ウエスト）
6 さくら・アリス
P06 7 尾形 雄樹
8 戸室太一建築設計室
P07 9 市川 寛
10 張 綺君
P08 11 第二次 谷杉（ミミトメ）
12 佐々木 樹
P09 13 中村 知嗣
14 深沢 義一
P10 15 山梨 由理
16 田附 希恵
P11 17 栗田 昇
18 永林 香穂
P12 19 丹尾 敏
20 章 元駿
P13 21 久木田 茜
P21 22 桃四コミュニティスクール 野外／まちなか つなぐ企画
P13 23 2.5 architects（森藤 文華＋葛 沁芸）
P14 24 池の畔の遊歩音楽会チーム

身体表現

P14 A 東京バンドネオン倶楽部
P15 B ぜんぶくトリヲ
C カワムラアツノリ
P16 D 三毛猫の音読屋（洲永 敬子）
E オンドズ
P17 F アトリエそら＋
G aqiLa
P18 H 武井よしみち＋ブルーボウルカンパニー’96
P21 I 佐藤ひろみとPINMY倶楽部 野外／まちなか つなぐ企画
P18 J 秋葉 美香
P19 K 西荻茶道部
L ハルカバード
P20 M Bamboo-K
N ラジオばちばち＋青山学院大学 鳥越けい子研究室

展示作品マップ

身体表現／イベント タイムテーブル



黒野 裕一郎
Chrono Yuichiro

ラストダンス
木工

いつもと変わらず、これまでと同じように、ここに舞台をつくります。

Last Dance
Timber

I will build a stage as before, in the same manner as previous years.

1981年 大分県生まれ
2005年 東京藝術大学大学院
美術研究科壁画専攻修了
2007年よりトロールの森に参加

武蔵野大学 水谷俊博研究室
Musashino University, Toshihiro Mizutani Lab.

建築の設計を専門分野としながら、空間デザイン、木工制作、アートワークショップなどを実践する、建築家の水谷俊博が主宰する研究室。代表建築作品に、「むさし野文学館」(2020年グッドデザイン賞受賞)、「里山フィールドミュージアムビジターセンター」(越後妻有2015)、「アーチの森2010」(武蔵野市CLEAN FES)等。

Obscured by Clouds
木材

普段は空に浮かぶ雲。その存在は物理的にはとても離れていて、身近には感じづらい。でも、雲は、私たちを様々な意味で魅了する。その雲が地上に降りてきてしまうという"非日常"な様相が、"日常"の場につくりだされることにより、思わず"キョトン"としてしまう私たち。そこから新たな世界観が開いていきます。

Obscured by Clouds
Timber

Clouds usually float in the sky. Their existence is physically so far away that it is hard to feel close to them. But clouds fascinate us in many ways. In this work, the "extraordinary" sight of clouds falling to the ground is created in an "everyday" site, causing us to involuntarily feel "bewilderment." From there, a new view of the world unfolds.

竹厚 桂子
Keiko Takeko

京都の田舎で幼少期を過ごした後、東京へ。97年渡米。00年マサチューセッツ州立大学卒業。帰国後、働きながら再び大学へ(武蔵野美術大学通信教育課程)。12年より作品を発表。また同年にすがぼん流マイム入門。身体表現も始める。自然、自分、人、関わりをテーマに作品を制作している。

SEE YOU AGAIN
ミクストメディア

鮮やかな紅葉達は消えてはうまれる自然のリズムを軽やかに表現しています。この作品を通して、自然にある、ありふれていて小さくて、たくさんあるもの達の美しさ、可愛らしさや強さを感じてもらえたら嬉しいです。

SEE YOU AGAIN
Mixed media

Brilliant autumn leaves gently represent the rhythm of nature. I hope visitors will feel the beauty, charm, and strength of the many small commonplace things in nature through my work.

中尾 紫香
NAKAO Shikou

1977年、東京都出身。植物を用いたインスタレーションを制作。いけばな草月流師範。

自然的距離
木

自然的距離を保ちながら立つ樹木。その間に、公園の間伐材を用いて木の壁を制作します。壁で隔てられながらも、空から紅葉が舞い、雨が降り、同じ空気が流れている。

Natural distance
Wood

Trees stand while maintaining a natural distance. In amongst the trees, we will create a wooden wall using thinned wood from the park. While separated by walls, the trees' autumn leaves dance in the sky, rain falls, and the same air flows.

Photo by Ikarashi Masahiro

宮岩 浩（ボムライ ウエスト）
Miyazaki Hiroshi（BOMBRAI WEST）

立命館大学土木工学科卒業後大阪府公立小学校教員。東京美学校入学 アート活動開始。現在、洛南高等学校付属小学校教員（京都府）。アートをはじめとして、教育、学問、旅行、アウトドアスポーツ等を通して、世界をとことん味わえる活動をできたらと思います。

撮影：岩崎が

善福寺鎮守ノ森遺跡
石、土、枝、各種耐水性塗料、太陽光発電照明

本作品は、「遺跡」をモチーフに、善福寺公園内に柱跡、規則的に並べられた石・木片などを配置して「遺跡」を創出する遺跡型インスタレーション作品です。「遺跡」とは、過去の遺物ですが、トロールの森2020のテーマ「キョトン」を受けて、その遺跡自体を制作するという虚構を試みてみたいと思います。

Zenpukuji Chinju no Mori Ruins
Stone, earth, branches, water-resistant paint, solar-powered light

Assuming the theme of “ruins,” this work takes the form of an installation created by arranging stones, wooden fragments and other materials in a regular layout to resemble remnants of pillars in Zenpukuji Park. “Ruins” are relics of the past, but I am attempting to create ruins themselves in response to “bewilderment,” the theme of Trolls in the Park 2020.

撮影：木村奈緒

尾形 雄樹
Yuki Ogata

1988年、福島県生まれ。一級建築士。
2017-2018：世界一周の旅を敢行
2019：flat class architects一級建築士事務所 開設

東屋台
木材、合板

「公園の求心性に対する抵抗感」と「東屋ってなんだっけ？」という疑問から生まれた屋台のような可動式の東屋。好きな場所を求め自由に場所を移動できる。東屋の稼働率は増え、方向性に縛られない。門型のフレームによって切り取られた、新たな風景を創出します。

Summer house
Wood, plywood

A movable *azumaya* (a Japanese-style pergoda) resembling a street stall borne from the questions, “What is an *azumaya* anyway?” and, “How can the centripetal nature of the park be resisted?” Summer house can move freely in search of its favorite place. While increasing the occupancy rate of *azumaya*, it is not bound to any one direction. Delineated by its gate-shaped frame, a new landscape will emerge.

さくら・アリス
Sakura Alice

西オーストラリア州、パース市生まれ、多摩美術大学修士課程絵画専攻を取得。現在は映像、インスタレーション、参加型イベントなど、様々なメディアを駆使し、制作を行っている。

高いハードルの下、池の端に
ゴムボール、鋼製バネ等

この束の間のイベントは展覧会期間中に断続的に決まった時間帯に開催します。来訪者は善福寺公園の自然の中を歩き回りながら、その不思議な光景に出会えるかもしれません。このインスタレーションを通し、参加者は自分自身、他者、また周囲との関係性について深く思考することでしょう。

Under a High Hurdle, by the Pond
Wood, mixed media, red carpet

This temporary event will occur intermittently at fixed intervals throughout the exhibition. As visitors walk their way around the natural environment of Zenpukuji Park, they may come across this mysterious spectacle. The curious installation evokes participants to reflect on their relationship with themselves, others and their surroundings.

戸室太一建築設計室
Taichi Tomuro Architects

1961年生まれ。1985年早稲田大学理工学部建築学科卒業。レンゾ・ピアノ・ビルディングワークショップ・ジャパン、アルヴァロ・シザ・アルキテット（文化庁芸術家在外研修員）、谷口建築設計研究所などを経て、2006年戸室太一建築設計室設立。

それは黄色く揺れている
ゴムボール、鋼製バネ等

公園の一画に黄色い丸い物体が地面より少し高いところに、線状にまた円状に連なっていて、ちょっと押してみると、うねうねと動き出します。自然がいっぱいの公園の中にあって、それは人工的なもので作られていますが、その動きはとても自然なものです。

It is trembling yellow.
Rubber balloon and steel spring, etc.

In an area of the park, round yellow objects are positioned in a line and circle slightly above the ground. Pushing them lightly will cause them to undulate. While made from artificial materials and installed in a park full of nature, their movements appear very natural.

撮影：西川公朗（Masao Nishikawa）

市川 寛
Hiroshi Ichikawa

ランドスケープデザイナー。人と自然、両者の質を向上させるデザインを目指しています。設計実務の他、ランドスケープデザイン誌にて海外作品を紹介する連載を執筆中。

catch
木材

都市の中で自然のサイクルを肌で感じられる貴重な場所である善福寺公園。“catch”は、自然の移り変わりに注目し地形や落ち葉にフォーカスしたランドアートインスタレーションです。作品を通して、人と自然の関係について考えるきっかけとなればいいなと思っています。

catch
Timber

Zenpukuji Park is a valuable place in the city where one can truly feel the cycle of nature. Catch is a land art installation that focuses on the transition of nature while paying attention to the terrain and fallen leaves. I hope this work will present an opportunity to think about the relationship between people and nature.

張 綺君
Sonia CHEUNG Yee Kwan

いつかここで
プラスチックボード、ミラーフォイル、トレーシングペイパー

この作品は、公園にいながらにして自分だけの「プライベートな時間」を楽しむことができる、まったく新しい体験です。公園の絶景スポットに設置された、鏡のインスタレーションを楽しむ、公園に捧げた流動的なプロジェクト。リアルタイムの公園の景色がインスタレーションに映し出されます。

Someday we'll be here
Plastic boards, mirror foils, tracing paper

“Someday we'll be here” is a whole new experience for you to enjoy your own “private time” while being in a public park! It is a fluid project dedicate in park, an installation with mirror and set up in a prefect park view spot. A real-time park view will be reflected into the installation.

1992年香港生まれ。動画とインスタレーションを中心に、コミュニケーションの方法を通じて、また人間と都市空間とのつながりの中で、孤立、記憶、破壊のテーマを探索。

第二次 谷杉(ミミトメ)
Dainiji Tanisugi(Ears+Eyes)

2010年: 第二次 谷杉(ミミトメ)名義で活動開始
第1回公演「パンとサーカス、その他の事」
2011年: 第2回公演
「マゴビキ、あるいは他人の靴の履き方」
2019年: トロールの森2019
野外×アート「声の小さな舞台俳優」
まちなか×アート「ガイドツアーもどき演劇 身振り採集」

協力:【ゲスト鳥人間】森川 敦、小鷲 順子、黒河内 豊
【映像出演】水沼広明、谷杉 歩音

あの時の鳥家族
ミクストメディア

演劇の枠組みを援用した観客参加型の演劇インスタレーションです。観客はいくつかの質問に答えた後、鳥人間の案内で木の上の巣箱をのぞき込み鳥家族の巣ごもり生活のようす(映像とミニチュア模型を組み合わせたもの)を見ることができます。見終わった観客は鳥のように羽ばたきながら帰らなくてはいけません。

Bird family in the past
Mixed media

This is a theatrical installation inviting audience participation that invokes the framework of theater. After answering several questions, the audience can peep into the birdhouse on the tree under the guidance of the birdman to see the lives of the bird-family. The inside of the birdhouse is represented by a video and a miniature model. Afterwards, the audience must fly back to their own homes like a bird.

佐々木 樹
Miki SASAKI

詩人/美術家。宮城県生まれ。法政大学社会学部卒業。日本大学大学院芸術学研究科文芸学専攻修了。現在、秋田公立美術大学大学院複合芸術研究科博士課程複合芸術専攻在籍/ 昭和女子大学環境デザイン学科デザインプロデュースコース助手。写真と筆蹟を中心対象とし、ビジュアル観察法を用いた方法詩の制作を行う。

<わたしたちの光彩>|善福寺公園にて/小学生の場合(2020)
帆布、インク、メディウム、グロッシーペーパー

本作品群は杉並区立桃井第四小学校の児童にカメラを貸渡し、善福寺公園周辺の場所・モノの内で興味を惹かれた対象を撮影してもらうことにより始まる。わたしは撮影した際の感情・理由を彼らから具体的に聞き取り、それらの持つ機微を整理し、複合化する。本作品群は彼らの眼が捉えたポイントが重なり合った、ある輝きのかたちである。

<Specific colors>|Zenpukuji Park/Elementary school(2020)
Sailcloth, ink, medium, glossy paper

This series of works begins with the lending of cameras to pupils of Momoi No. 4 Elementary School in Suginami Ward, who will then take photos of subjects that interest them among the places and things surrounding Zenpukuji Park. I will then ascertain their feelings and reasons for taking the photos, organize the subtleties of their images, and combine them together. The resulting group of works will shine with a certain radiance in which the points that caught the pupils' attention intersect.

中村 知嗣
TOMOTSUGU NAKAMURA

兵庫県尼崎生まれ。大学時代から写真家として活動を開始。その後、植物に呼ばれ、植物を使った作品を生み出す。現在は、植物作品の他、paintやceramicにも力を入れる。

和
植物

人は完璧では無い。しかし、人は相手に対して、完璧を求める。植物＝人、装飾＝今まで生きてきたしがらみ、情報。今、この時代、相手に完璧を求めるのは、相応しく無い。それよりも、分かち合う選択を選ぶ方が良いのではないでしょうか。

Harmony
Plants

People are not perfect. However, people seek perfection in others. Plants = people, decoration = the shackles and information that we have lived by until now. Today, in this age, it is not appropriate to seek perfection in others. Rather, isn't it better to choose to share?

深沢 義一
FUKAZAWA Yoshikazu

1955年、東京生まれ。多摩美術大学大学院デザイン科修了。埼玉現代美術の祭典（埼玉県立美術館）。現代アートコンペティション（アートスペース・コア）空間を造形しよう展（練馬区立美術館）。3・11感謝（3人展）韓国日本大使館文化院シルクギャラリー。金属造形作家集団ジリオ アトリエベガ主宰。

らせん
鉄

すべての物事はらせんになっている。
ぐるっと回って元の所に戻っているようで少しずつ成長している。
森羅万象
輪廻転生

Spiral
Iron

All things are spirals.
Appearing to spin around and return to their point of origin, each grows little by little.
The whole of creation.
Reincarnating.

山梨 由理
YAMANASHI Yuri

2020年、筑波大学芸術専門学群構成専攻総合造形領域卒業。現在は筑波大学人間総合科学研究群芸術学学位プログラム総合造形領域に所属しています。2018年、トロールの森参加「消える私」。

ドッペルゲンガー
リフォームシート、ベニヤ板、アクリル絵の具

等身大の私の絵を展示して、私が歩き回るパフォーマンスと、等身大の私を描くライブペイントを行います。「あ、あの人さっき見た」「あ、絵の人だ」と思ってもらえたり、話しかけてもらえれば幸いです。

Doppelganger
Floor reform sheet, plywood, acrylic paint

I will exhibit life-size self-portraits, hold a performance in which I walk around the park, and hold a live painting performance in which I create a life-size self-portrait. While thinking, "Oh, that was the person I saw earlier" and "Oh, that was the person who was painting," I hope visitors will come up and talk to me.

田附 希恵
Kie Tatsuki

むれをなすサカナ
鉄

——川の流れに逆らって複数のサカナが同じ方へおよぐ。世界のすべてのものを人はそれぞれの特徴でわけてきました。でもその分類は人間が都合で作っただけ。それを知ってもそのものを理解してるわけではないのです。あなたはこの作品を何だと、どう思いますか？

School of fish
Iron

A multitude of fish swim in the same direction against the flow of the river. People have divided everything in the world according to their respective characteristics. But these classifications are only for human convenience. Knowledge of such classifications does not equate to understanding them. What do you think of this work, and what do you think it represents?

東京都杉並区生まれ。2018年女子美術大学大学院卒業。植物などをモチーフにした作品を制作。主に鉄の丸棒を使い、空間に線を引き、絵を描くように立体を造形している。

栗田 昇
KURITA Noboru

ウォーターワールド
木材

静かに水をたたえた善福寺池、トロールの妖精が魔法をかけて、水が流れ出し、吹き上がり、水車を回し、魚が踊る･･･、いつもと違う池の景色は、魔法が解けるその日まで、つづく。

Water World
Timber

Quietly filled with water, Zenpukuji Pond is home to a troll fairy who casts a spell, causing water to spill out and spring up, turning the water wheel and making the fish dance… Scenery of the pond, different from usual, will continue until the day when the spell is broken.

1976　武蔵野美術短大工芸工業デザイン科卒業
1983　自動車会社入社、インテリアデザイン開発従事
1991~96 米国駐在
2011　退職、木材を使って造形活動を開始
2014~　国分寺市「お鷹の道」に水車を設置(毎週末)
2016~　トロールの森 出展
2020　アウトドアギャラリー@お鷹の道を開催
クラフト展 入選　その他グループ展 出展

永林 香穂
NAGABAYASHI Kaho

1990年、東京都生まれ。2016年、東京藝術大学大学院修了。東京を拠点に制作を行う。主に人間をモチーフにした粘土原型による彫刻表現をしており、漆・FRP・テラコッタの素材を扱っている。

おしりダケ
ミクストメディア

「頭の中で生まれた、枯れない植物」を作っています。この世界にはまだ存在しない、おしりのような植物を公園と屋内に展示します。おしりダケを通して、今日見てくれた人とおしりあいになれますように。

Oshiridake
Mixed media

I am creating plants borne in my imagination that never die. I will exhibit in the park and indoor spaces a plant resembling a posterior that does not yet exist in this world. Standing “cheek to cheek,” I hope park visitors become acquainted with one another through *Oshiridake* (literally meaning “posterior mushroom”)..

丹尾 敏
niobin

茨城県水戸市生まれ。鍛冶屋修業後、2017年 知多半島・常滑に移住しniobinstudioを設立。鉄と土と海や生き物と戯れる生活を過ごしています。

種について -それから-
鉄

2014年の出展作品「種について」は種の中に人が入れる作品でした。その後、桃井第四小学校屋上に長く展示させて頂き、子供たちが大切にしてくれました。時を超え、形を変え、鉄の命を繋いでいきます。ゆりかごのように。

About seeds ～after that～
Iron

About Seeds exhibited in Trolls 2014 was a work in which people could climb inside a seed. After the exhibition, it was displayed for a long period on the roof of Momoi No.4 Elementary School, and the children took special care of it. Changing form over time to resemble a cradle, it connects to the life of iron.

章 元駿
ZHANG Yuanjun

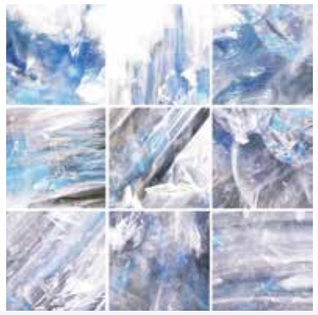
立冬
PVC、鉄線、シルバーフィルム、板材、アクリルガッシュなど

秋が極まり冬の気配が立ち始める立冬の時期。工場で生産された花々で構成された、「立冬」というタイトルの古詩一首が一面に植えられている。それは人工的なものと自然との境界線を曖昧にする花畑だ。

The start of winter
PVC, Wires, Silver paper, Plank, Acrylic gouache, etc.

The term when the autumn ends and the earth begins to harden is called “立冬”. Planted flowers of factory production media compose an ancient poem titled “The Start of Winter”, which is trying to blur the boundary of artificiality and nature.

©ZHANG Yuanjun



ミラノ理工大学建築修士修了、建築デザイナーとしてミラノを拠点に建築空間やインストレーションなど幅広い芸術活動を行っている。

久木田 茜
Kukita Akane

1987年生。さいたま市在住。現在、東京芸術大学大学院美術研究科博士後期（博士）課程先端藝術表現専攻に在籍。陶や金属などを素材に、自然や人工の中に共通するパターンをテーマに制作をしています。

文を編む

陶、真鍮

都内の公園に縄文土器の文様から触発された、遺跡のような美しい空間を作る。モチーフは縄文土器の文様である。縄文土器の文様の一部は、縄文という名前通り縄目を押し付けて作られている。その不在の糸を再び立ち上がらせ、フィボナッチや黄金比による螺旋を重ねた文様へ再構成させる。

Weaved Ornament

Ceramic, brass

Taking inspiration from the patterns of Jomon pottery found in parks in Tokyo, I will create a beautiful space resembling historical remains. The motifs are the patterns of Jomon pottery. As the term "Jomon" (meaning "straw rope pattern") suggests, some of these patterns were made by pressing rope knots into the clay. The absent rope will be raised once again, reconstructed into a layered spiral pattern based on the Fibonacci sequence and the golden ratio.

2.5 architects（森藤文華+葛沁芸）
2.5 architects (Fumika Morito+Shingei Katsu)

女性建築家2人による一級建築士事務所。アーキテクチュラル・アーティストとして建築のみならず、アート、プロダクトデザイン、インスタレーションと活動の場を広げている。中之条ビエンナーレ、かけがわ茶エンナーレ等に参加。

Signal

布・糸・他

ウィルスによって全世界で人々は接触を避けるようになり、分断が起こり、それでもなおコミュニケーションを求めるこの時代。明日への道筋を照らす暗闇の中の灯台のように、そっと密かなサインを送り続けてくれる存在を紡ぎます。

Signal

Cloth, string, etc.

We are living in an age of pandemic that a virus obstructs our contacts, causes divisions all over the world, and yet we still seek communication. Our installations would send secret signals continuously and quietly, as if a lighthouse in the darkness illuminates your path to tomorrow.

池の畔の遊歩音楽会チーム
Team Promenade Concert around the Pond

池の畔の遊歩音楽会2020：トランスメディアウォーク　ミクストメディア

かつてこの池の周りで執り行われてきた「不思議な儀式／遊歩音楽会」の跡地巡礼。各地点に示されたコードを読み解くと、それぞれの歌や踊りが立ち現われる。リアルな世界の只中でそれらの音源を聴くとき、私たちは「土地に蓄積された歴史や記憶」をどこまで感じることができるだろうか？

A Pondside Walk Concert 2020：TransMediaWalk　Mixed Media

A pilgrimage to the site of a "mysterious ceremony/walking concert" once held around this pond. If you read the codes shown at different spots, various songs and dances will appear. Upon hearing these sound sources here in the real world, to what extent will we be able to sense the history and memories accumulated in the land?

鳥越 けい子
「形あるもの・見えるモノを超えた環境」をテーマに、各種デザインプロジェクトを手がけている。専門はサウンドスケープ・音の環境文化学。善福寺の住人、ラジオばちばちメンバー。青山学院大学総合文化政策学部教授。

鷲野 宏
アートディレクター／デザイナー。芝浦工業大学卒（曽根幸一・環境設計研究室）。代議士秘書を経て、現在は、グラフィックデザインや「まち」に関わるアートプロジェクトを中心に活動。主宰する「都市楽師プロジェクト」では、音や音楽をきっかけとして建築や都市の空間のもつ「その場らしさ」を共有していくためのプログラムを企画・展開している。日本サウンドスケープ協会理事・事務局長。千葉明徳短期大学非常勤講師（現代社会論）。

東京バンドネオン倶楽部
Tokyo Bandoneon Club

東京バンドネオン倶楽部は、1994年の設立以来アルゼンチン・タンゴを演奏する20名の団体です。創立以来、世界的なバンドネオン奏者小松亮太氏の指導を仰ぎ、毎年都内のホールでコンサートを開催。その他、高齢者施設などで演奏を行っています。海外では韓国公演を2回経験。

タンゴ・ライブ

アルゼンチンタンゴの代表的な蛇腹楽器バンドネオン6台と、ピアノ、ヴァイオリン、チェロのアンサンブルで秋の公園をノスタルジックな世界に染め上げます。生演奏ならではのタンゴのリズムをお楽しみください。

Tango Live

Together with six bandoneons, the musical instrument representative of Argentinian Tango, an ensemble consisting of piano, violin, and cello will transport the autumn park to a nostalgic world. Please enjoy the distinctive rhythm of tango in this live performance.

ぜんぷくトリヲ
Zenpuku Trio

橋本フサヨ
パントマイムを清水きよしに師事。桃川流江戸かっぽれを家元桃川亜紅に師事。自作自演のオリジナリティーあふれる作品で活動中。

鈴木秀城
東京マイム研究所にて並木孝雄に師事。橋本フサヨ氏と「ぜんぷくトリヲ」を組み、トロールの森に参加すること多数。『いのちのオンパレード』、『タロウ』を発表。昨年は個人として「ラジオばちばち」さんの野外劇『黄金バット』に客演を果たし、芸域(?)をひろげている。

いのちのオンパレード 大酒のみ

ナイジェリアの古典文学『ヤシ酒のみ』に発想を得、一人の大酒飲みが死んでしまった愛する杜氏を探す冒険譚。公園を森に見立て、移動しながら展開します。酒宴や村祭りの場では善福寺地元のかっぽれグループ「かぽーれ・かぽーれ・よいとな」が友情出演。

Drunkard : A Parade of Life

Inspired by Nigerian literature classic The Palm-Wine Drinkard, an adventure story about a drunkard who goes in search of his beloved friend, a winemaker. Likening the park to a forest, the story will develop while moving through the park grounds. Cameo appearance: Kappore, Kappore, Yoitona

カワムラアツノリ
Atsunori Kawamura

学生演劇→黒テント養成所→ダンスとか身体表現系→演劇回帰の一面も→演劇ともダンスともどっちつかずで→今に至る。パフォーマンスグループ「初期型」主宰。

動くべきとき動いて、そうでないときは動かない

即興で踊ります。即興とは何か？ ダンスとは何か？ を自問自答しながら踊ります。溢れた思考は口からこぼれます。こぼれた言葉がカラダを導いてもくれます。

Move when you need to, be still when you don't

Improvised dance. Dance, talk and dance some more. In a dance to question dance, the perspectives of the audience are sure to change.

三毛猫の音読屋(洲永 敬子)
The Calico cat's Reading Room(Sunaga Keiko)

2008年より西荻窪在住。からだと息で言葉を伝える朗読を身近な場所で行う。「かぽーれ・かぽーれ・よいとな」のメンバーでもある。

「おつきさんとねこ」☆序章

メゾンドネコのオーナーで宮城県出身の平さんが、震災のあとにさまざまな思いを込めてつづった童話「おつきさんとねこ」。捨てられた飼い猫が月との対話を通して、森の生き物としてたくましく暮らすようになる不思議なお話です。今回は絵本になる前の序章として、長野さんの絵とともに朗読をお届けします。

「The Moon and the Cat」☆Prologue

Written by Taira Kyoko, Miyagi-born owner of Maison de neko (House of Cats), "*Otsukisan to Neko*" is a fairytale based on the author's thoughts following the 2011 Tōhoku earthquake. It tells the wondrous story of an abandoned domestic cat that learns to live tenaciously as a creature of the forest through conversations with the moon. I will give a reading of the book together with the illustrations of Nagano Ryonosuke.

オンドズ
Ondoz

オンドズ1号の橋本フサヨとオンドズ2号の奥秋亜矢で活動。トロールの森のほか、保育園にも出前音頭をしてます。

踊らにゃソンソン!

西尾賢、チャンキー松本らの作詞・作曲・歌による音頭を橋本フサヨがかっぽれ風に振り付け。「西荻案内音頭」「たがやせ!どじょうおじさん音頭」「酪農音頭」を観客参加で輪になって踊る。

Dancing Fool!

A dance performance choreographed by Hashimoto Fusayo to music written, composed, and sung by Nishio Ken and Chanky Matsumoto. Forming a circle and with the participation of the audience, we will dance to the songs "Nishi Ogi Annai," "Tagayase! Dojo Ojisan," and "Rakuno."

アトリエそら＋
Atelier SORA Plus

アトリエそら
善福寺にある造形教室。プロジェクトでは桃四小の子ども達とワークショップで制作を担当（今年度はアートキッズが開催されなかったため）。代表は早内佳子。

西村 正平
若い頃に出逢った詩人の谷川俊太郎氏の自作朗読に衝撃を受け、以来半世紀超、ライフワークとして近現代詩の朗読を続け今日に至る。現在、千葉・横浜・都内の3箇所で朗読塾を継続。

＋（プリュス）
海外の「Free Little Library」に想を得た、本を楽しむためのワークショップとアクティビティのチーム。

マイ本棚を巡る冒険 第4巻

こどもたちとのワークショップで作ったマイ本棚を展示します。今年は中に本はありません。どんな本がこの本棚に合うだろうか、どんな本を読もうか、想像の中で本の冒険は続きます。期間中、リーディングあり。

The 4th Adventures of My Book Shelf

We will exhibit my bookshelf made during a children's workshop. It will not contain any books this year. What kind of book would suit this bookshelf? What kind of book shall we read? Pondering such questions, this book adventure will continue in the viewer's imagination. Reading events are also planned during the exhibition.

aqiLa

俳優、脚本家、ダンサー、ワークショップファシリテーターなど多様な実績がある表現者。「演劇は遊び道具である」という信念と150cmの特異な肉体が武器。演劇教育家養成講座1級。東北大学大学院文学研究科修了。

からだ・きょとん・そのさき

善福寺公園に突如として現れたaqiLaたちが演劇のようなコンテンポラリーダンスのような身体表現をおこないます。周囲の環境やお客さんの反応によって様々な動きをしていきます。最後には突然aqiLaたちはどこかへ去っていきます。お客さんはきっと「きょとん」とすることでしょう。

Body “Kyoton” Future

"aqiLa" and others will suddenly appear in Zenpukuji Park to give a performance resembling both contemporary dance and theater. We will perform various movements that respond to the surrounding environment and the reactions of spectators. At its conclusion, aqiLa and others will suddenly fade from view, surely leading to bewilderment in the onlookers.

武井よしみち＋ブルーボウルカンパニー’96
Takei Yoshimichi+Blue Ball Company’96

日常生活の根幹をなす「歩行」を表現の主体に置き、足の働きを「数字や拍や声」等に変換しつつ、都市文化を考察する手掛かりとして、<足からの視点>をテーマとしてきた。パフォーマンスでは「足踏み＋デジタルカウンター」「歩行＋和声」「拍子＋階段昇降」等、ふたつ以上の動きの要素を連動し、そこで発生する「音のリアルな振動」をライブ空間に提出している。1996年から、白熱電球と光センサーを用いた意匠による「BIG YAWN・大欠伸」シリーズ、2000年から、視覚的な身体表現＋作品空間から生まれる<音>をモチーフとした「I WISH YOU WERE HERE」シリーズ、2014年から、源流となる「足の働き」から、支流となる「表現の世界」へ向かって、重力的な加速を試みる「STEP and CHANT」シリーズを発表している。

足が耕す表現の世界 第7弾 「ステップ アンド チャント 2020 A/W ‘公園でview!!’の巻」

ステップ（足踏み）とチャント（朗唱）を基軸として、日常の何気ない動作を拾い出してみる。普段は見過ごし、目に留めなかった「しぐさ」をクローズアップしてみる。またパフォーマンスを通して観客の皆さんにアプローチし、双方向でテーマを掘り下げる機会にしたいと考えます。

協力：吉川陽一郎

A World of Expression Cultivated by Feet Volume 7 STEP & CHANT 2020 A/W Park de View/Début!!

Based on stepping and chanting, we will attempt to pick out casual movements from daily life. Let's take a closer look at the gestures we usually overlook and pay little attention to. In addition, we will approach spectators during the performance, using it as an opportunity to explore the theme of the event in various ways.

Cooperation: Yoshikawa Youichiro

秋葉 美香
Mika Akiba

Virgin

「キョトン」という感覚を、どうにか身体表現で出来ないものか。普段の日常から少し離れた、非現実的な世界観が作れたら面白いかもしれない。この善福寺公園で、木や私がどのように合わさっていくのか… とりあえずやってみよう。

Virgin

Is it not possible to somehow express the feeling of “bewilderment” through physical expression? It might be interesting to create an unrealistic world view distanced slightly from daily life. How can I merge with the trees here in Zenpukuji Park…? Anyway, let's give it a try.

ダンスの専門学校に通い、卒業後はオリエンタルランドでパフォーマンスを学び、3年ほどキッズダンスのインストラクターの経験を積み、独立。同時に、コンテンポラリーダンスやインプロビゼーションを中心としたレッスンを受け、自分のライフワークだと知る。

西荻茶道部
Nishiogi Tea Ceremony Club

建築・ムーブメント・工芸など複層的に構成されることから総合芸術ともいわれる「茶道」を学び、茶会を通して現代文化を見直すような問題提起をしていこうと、坂田夏水が声かけをして集まったメンバーで2020年2月に結成。

茶室

サッと組み立てできて、パッとたためる。神出鬼没の茶室が善福寺公園に登場です。茶道はさまざまな要素を内包した総合芸術。公園というパブリックな場所に設置された簡易茶室での茶事は、誰かに見られることになる。日常体験から一歩踏み込む茶事が、見られることでより「演劇的な体験」へと変容します。

Teahouse

A simple tearoom that can be quickly assembled and folded up will appear mysteriously in Zenpukuji Park. Giving new form to the tea ceremony, Teahouse will transform into a "theatrical experience" when seen by onlookers.

ハルカバード
haruka bird

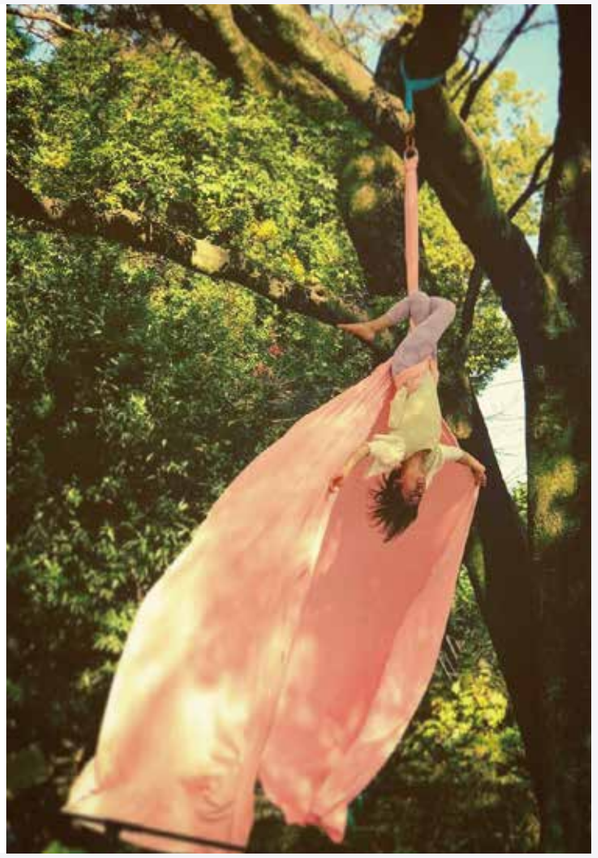
星の涙

ある星では毎日毎日悲しいことがたくさん起きていました。そのうちその星が泣き始めました。その涙は悲しい人たちに降りそそぎました。その涙は星の愛でできていました。そして大きな湖ができました。悲しい人たちは愛でできた涙をたくさん浴びて、もう悲しくなくなりました。そしてみんな一緒に大きな湖で遊ぶようになりました。

The beautiful lake

There once was a beautiful star with beautiful things. But everyday sad things would happen on this star. Because of this the star started crying. The big tears showered on the sad people. These tears flowed out from the star's heart. This in time became a most beautiful lake. As the tears from the star's heart healed the sad people, they were no longer sad. From then on, the people played joyfully in this beautiful lake.

オーストラリア育ち。2003年から様々なアート活動を始める。箏、唄、絵、身体即興、弾き語り、野外パフォーマンス。2011年舞踏家と共に箏で即興ライブツアーをドイツで行う。2012年瞑想を始める。2015年身体も即興し始める。すべての人に自分の中のキラキラを見つけてほしい。



Bamboo-K

マイムショートストーリー《鳥》《風》

自然にちなんだ自作マイム作品より「鳥」と「風」を選びました。特に「風」は秋の作品であり、インスタレーション作品の「SEE YOU AGAIN」とも通ずる部分があります。動物と人、人と人、人と自然の素敵な関りをささやかに表現したいと思います。

Mime Short Story：“Bird” & “Wind”

I chose to make two mime performances, Bird and Wind, which are related to nature. In particular, Wind is an autumn piece that has a connection with my installation work, SEE YOU AGAIN. I would like to express the wonderful relationship humans have with animals, with other humans, and with nature.

京都の田舎で幼少期を過ごした後、東京へ。97年渡米。00年マサチューセッツ州立大学卒業。帰国後、働きながら再び大学へ（武蔵野美術大学通信教育課程）。12年より作品を発表。また同年にすがぽん流マイム入門。身体表現も始める。自然、自分、人、関わりをテーマに作品を制作している。

ラジオぱちぱち+
青山学院大学 鳥越けい子研究室
Radio88+
Aoyama Gakuin University, Keiko Torigoe Lab.

ラジオぱちぱち
善福寺を拠点に2001年より活動しているグループ。ミニFMからスタートし、現在はYouTubeで配信。月に一度の公開放送のほか、さまざまな活動を展開。トロールの森には2008年より参加。

青山学院大学 鳥越けい子研究室
研究室のテーマは「サウンドスケープ（音風景）から読む都市／音・音楽とまちづくり」。「都市のみえない資源」「土地の記憶」を探るための方法を学びながら「アートとまちづくり」に関するさまざまな活動を展開している。

ラジオトロール2020

トロールの森の期間中、参加アーティストたちやその作品の魅力を知るためのラジオ番組をつくり、さまざまな形でアーティストの声を届けます。

Radio Troll 2020

During *Trolls in the Park 2020*, we will create a radio program to learn about the participating artists and their works, transmitting the voices of the artists in various ways.

野外／まちなか つなぐ企画

桃四コミュニティスクール
MOMOSHI Community School

おでかけトロール　木
西荻窪駅からバス通りへとのびるトロールたちが、公園内へと続き、森でかくれんぼ。

'Odekake'(Adventurous)TROLLs　Wood
Trolls that can be seen from Nishi-Ogikubo Station all along the bus route will continue on into the park, playing hide-and-seek in the woods.

野外／まちなか つなぐ企画

佐藤ひろみとPINMY倶楽部
Sato Hiromi and PINMY Club

東京都練馬区出身。所沢在住。ピンク色を基調とした作品を製作する。女性の生きる力と生命感あふれる性の表現をめざしている。毎年個展を開催。愛知万博、高崎、銀座、沖縄、ニューヨーク、韓国でウォーキングパフォーマンス。AJAC展代表。NEU21世紀美術展会員。現代美術日韓展会員。ギャラリーGK、アーチストスペース、アートポイント。小野画廊。AJAC展。新国立美術館、上野美術館、他。2009年8月、韓国の韓電アートギャラリーで個展(現代美術韓日展)。

PINK MASK Walking
自作のピンクの衣装とピンクのアートマスクを身につけてLOVEウォーキング。桃井第四小からバスに乗って西荻窪駅、街中へ。そして善福寺公園へ。ソーシャルディスタンスを意識しながらPINK WAVEを送ります。

PINK MASK Walking
A LOVE Walk by performers in self-made pink costumes and decorative pink masks. After riding a bus from Momoi Daishi Elementary School to Nishi-Ogikubo Station, we will walk around the town and then on to Zenpukuji Park. While observing social distance, we will send a PINK WAVE to onlookers.

まちなか×アート　Art Program Around Nishi-Ogikubo

西荻窪から善福寺公園周辺までをエリアに展開するまちかどアートや公演など多彩なプログラム！

A diverse program of events, from art on street corners to public performances taking place in the area between Nishiogikubo and Zenpukuji Park!

西荻窪〜善福寺周辺

P21 **1** 佐藤ひろみとPINMY倶楽部　野外／まちなか つなぐ企画

P24 **2** 初期型

P24 **3** 0円均一

P25 **4** 田中 庸介

P25 **5** 橋本 フサヨ

P24 **6** 遊工房アートスペース

P24 **7** RITENUTObytac

P21 **8** ももしのおでかけトロール　野外／まちなか つなぐ企画

葉月ホールハウス

P26 **9** 佐藤 ひろみ

P26 **10** 永林 香穂

P27 **11** 丹尾 敏

P27 **12** Gates

えきまえ企画

P28 **13** 高島 亮三

まちなか関連企画

P28 **14** 西荻たんけん隊

杉並区立桃井第四小学校

P29 P30 **15** ビッグ☆ザッパーズ

etc.
【展示】 12 佐々木 樹　23 2.5architects(森藤文華+葛沁芸)　【イベント】 3 0円均一
【ワークショップ】 5 宮嵜浩(ボムライ ウエスト)　12 佐々木 樹　21 久木田 茜　B ぜんぶくトリヲ　F アトリエそら+　7 RITENUTObytac

初期型
Primal Type

ジャンル 映像作品
日 程 11/3(火・祝)〜11/23(月・祝)
会 場 浜商不動産南口駅前支店ウィンドウ
市海不動産ウィンドウ

2001年結成。物事をダンスという側面、演劇という側面、両面から捉えてその時その時で答えを出すしかないんです。モットーは「愛すべきバカ」。ポップな前衛を心がけております。

悲しいことは、美しいこと

美しいと思えるもの全てが悲劇的ではないけど、
悲劇の中には必ず美しさがある。

Sadness is Beautiful

Not everything that seems beautiful is tragic,
but there is always beauty in tragedy.

0円均一
Zeroyen Kinitsu

ジャンル アクティビティ
日 程 11/3(火・祝)〜11/23(月・祝)
会 場 善福寺地域周辺

2008年頃より各家庭の不用品の「売り/買い(譲る/貰う)」を仲介する活動「0円均一」を開始。以後、ささやかに活動を継続中。「0円」とはいえ「売り買い」を標榜していることもあり、2018年5月、活動開始10周年を機に古物商許可証を所得した。

古物商許可証[第308901805289号/東京都公安委員会]

0円均一 善福寺商店街 2020

各家庭の不用品の「売り/買い(譲る/貰う)」を仲介する活動「0円均一」。「いつでも・どこでも・だれでも」「自分・多分・いい気分」を理念に、各自がそれぞれのスタンスで「開店」してもらう事が最終目標です。そのキッカケ作りとして今年も杉並区の善福寺地域で商店街形式の「0円均一」を実施しました。

EVERYTHING ZERO YEN-Zenpukuji Shopping Arcade 2020

Through the buying and selling of disused goods for 0 yen the notion of "possession" within our familiar environment and interactions is questioned. All 0 yen market open to all!

田中 庸介
Yosuke Tanaka

ジャンル 詩のパフォーマンスと暗渠トーク
日 程 11/22(日)
会 場 かがやき亭

田中 庸介[詩]
1969年東京生、詩人・細胞生物学者。詩集に『山が見える日に、』『モン・サン・ミシェルに行きたいな』(思潮社)など。「場所の移動」をライフワークに。西荻在住。

山羽 真実子(ソらと晴れ女)[舞踏]
舞踏パフォーマー。あらい汎にパントマイムを師事。カンパニーvivivivi!主宰。西荻在住。

暗渠マニアックス[トーク]
暗渠研究家の髙山英男・吉村生のユニット。共著に『暗渠パラダイス!』『暗渠マニアック!』など。暗渠のツアーガイド、講演、雑誌記事、テレビ出演など多数。

ぴんくの砂袋 〜妃チャンネル〜

詩は文学の暗渠である、と言ってもよいでしょうか。西荻在住の詩人・田中庸介の最新詩集『ぴんくの砂袋』の自作朗読を、山羽真実子(ソらと晴れ女)の舞踏とともにお送りします。詩人がはじめて身体に結びつけたぴんくの砂袋とは。暗渠マニアックスとの過激なアフタートークも必見です。

Pink Sandbag 〜KISAKI Poetry Channeling〜

Is it possible to say that poetry is a literary culvert? We will perform an original reading of Pink Sandbag, the latest poetry collection of poet and Nishiogikubo resident Yosuke Tanaka, accompanied by a dance performance by Mamiko Yamaha (Sora to Hare Onna). What is the pink sandbag this poet has tied to his body for the very first time? The radical after-talk by culvert maniacs is not to be missed!

橋本 フサヨ
Fusayo Hashimoto

ジャンル パフォーマンス
日 程 11/13(金)
会 場 Cacapo Platz

パントマイムを清水きよしに師事、かっぽれを桃川亜紅に師事。パントマイムとかっぽれを融合させたオリジナリティーあふれる作品で活動中。

マイム de かぽれ

パントマイムとかっぽれのバラエティーショー。猪俣洋子の三味線の生演奏が入り、観客を巻き込んでの愉快・爽快な60分。

Pantomime meets Kappore

A variety show combining pantomime and Kappore, an Edo period dance. Including a lively shamisen performance by Yoko Inomata, 60 minutes of fun and exhilaration that is sure to engage the audience.

遊工房アートスペース
Youkobo Art Space

ジャンル 展示　日 程 11/3(火・祝)～11/29(日)　会 場 遊工房アートスペース

企画展 在京作家によるグループ展「隣り合う片腕」
「ALABORA」(大塚 聡、川越 健太、杢谷 圭章)

アーカイブ展 トロールの森・20年の歩み
開催開始から19年間の各年の活動状況と、2021年開催の20周年に向けて。

A group Exhibition by Tokyo-based artists: The traced line
「ALABORA」(Satoshi OTSUKA, Kenta KAWAGOE, Yoshiaki MOKUTANI)

Archive Exhibition: Trolls in the Park-A 20 -Year History
A summary of activities in respective years since the exhibition was first held 19 years ago, in anticipation of its 20th anniversary in 2021.

隣り合う片腕(2F)

隣り合う片腕(1F)

撮影:川越 健太

トロールの森-20年の歩み

海外アーティストが滞在制作するアーティスト・イン・レジデンス(AIR)を柱に、国内外のアーティストを迎え、国内若手作家の多彩な発表や芸術文化交流の場にも。1989年以来、約50カ国から300名を超えるアーティストを受け入れています。

RITENUTObytac

ジャンル インスタレーション
日 程 11/21(土)～11/23(月・祝)
会 場 ギャラリーカドッコ

ロンドン芸術大学卒。
卒業後、ロンドンにてファッションデザイナーとして勤務。帰国後RITENUTObytacを立ち上げ、映画、舞台、cm、ブライダル、様々な衣装をデザイン制作。
衣服を媒体としての作品発表を行う。

衣sm
綿、ポリエステル、ナイロン、プラスチック

衣sm

衣服の概念の解放
衣服を媒体とした表現活動
衣服の循環の改革

Clothism
Cotton, polyester, nylon, plastic

Clothism

Liberation of the concept of clothing
Creative expression using clothing as medium
Innovation of the life cycle of clothing

佐藤 ひろみ
Sato Hiromi

ジャンル インスタレーション
日 程 11/3(火・祝)～11/15(日)
会 場 葉月ホールハウス

東京都練馬区出身。所沢在住。ピンク色を基調とした作品を製作する。女性の生きる力と生命感あふれる性の表現をめざしている。毎年個展を開催。愛知万博、高崎、銀座、沖縄、ニューヨーク、韓国でウォーキングパフォーマンス。AJAC展代表。NEU21世紀美術展会員。現代美術日韓展会員。ギャラリーGK、アーチストスペース、アートポイント。小野画廊。AJAC展。新国立美術館、上野美術館、他。2009年8月、韓国の韓電アートギャラリーで個展(現代美術韓日展)。

ピンクのわにさん
綿、ミクストメディア

等身大ほどのPINKのわにさんを見てキョトン、PINKの世界に引き込まれてキョトン。PINMYワールドで生きる力を与えてくれるPINKの作品に出合ってください。今年はやりの、巨大アマビエにも出会えます。作家がいる時には、アートアロマ体験ができるかも?キョトン??と香りも楽しんでください。

PINK Crocodile
Cotton cloth, mixed media

Upon seeing a life-sized PINK crocodile and being drawn into a world of PINK, you are sure to experience bewilderment. Please encounter this PINK work, giving you the power to live in PINMY world. This year, you can also meet a giant Amabie.

永林 香穂
NAGABAYASHI Kaho

ジャンル 彫刻
日 程 11/3(火・祝)～11/15(日)
会 場 葉月ホールハウス

1990年、東京都生まれ。2016年、東京藝術大学大学院修了。東京を拠点に制作を行う。主に人間をモチーフにした粘土原型による彫刻表現をしており、漆・FRP・テラコッタの素材を扱っている。

おしりダケ
ミクストメディア

「頭の中で生まれた、枯れない植物」を作っています。この世界にはまだ存在しない、おしりのような植物を公園と屋内に展示します。おしりダケを通して、今日見てくれた人とおしりあいになれますように。

Oshiridake
Mixed media

I am creating plants borne in my imagination that never die. I will exhibit in the park and indoor spaces a plant resembling a posterior that does not yet exist in this world. Standing "cheek to cheek," I hope park visitors become acquainted with one another through *Oshiridake (literally meaning "posterior mushroom")*..

丹尾 敏
niobin

ジャンル 彫刻
日 程 11/3(火・祝)〜11/15(日)
会 場 葉月ホールハウス

茨城県水戸市生まれ。鍛冶屋修業後、2017年知多半島・常滑に移住しniobinstudioを設立。鉄と土と海や生き物と戯れる生活を過ごしています。

日々手紙

鉄

鉄の声を聞く。
それは大地からの、海からの、風からの言葉。
体に言葉を取り込み、日記のように鉄を紡いでいく。

Daily Letter

Iron

Listen to the voice of iron.
They are words from the earth, the sea, and the wind.
Draw the words into your body and assemble iron like a diary.

Gates

ジャンル パフォーマンス
日 程 11/21(土)
会 場 葉月ホールハウス

作曲家・ピアニスト宇田川賢人と、陶芸家でありダンサーの石井あや子によるデュオ。2019年に結成。

Invisible Drawing

無音の空間に、音と動きによる見えないドローイングをします。現れた音にきょとんとし、はっと閃き、ふっと放つ連続は、やがて見えないドローイングとなり見る人々の体の中に現れ、消える。

Invisible Drawing

I will make an invisible drawing using sound and movement in a silent space. Suddenly undulating and released continually without warning, the sounds will cause bewilderment as they delineate an invisible drawing that appears and disappears in the bodies of the viewers.

高島 亮三
TAKASHIMA Ryozo

ジャンル 展示
日 程 11/3(火・祝)〜11/23(月・祝)
会 場 Daily Table KINOKUNIYA 西荻窪店前

National ● Dice

サイコロ

森(全体)を見て、木(個)を見ず。駅前に設置してあるこの作品、遠目で見ただけでサイコロだと思わず、ぜひ近くで目を凝らしてご覧ください。ほら、やっぱりサイコロですから。

National ● Dice

Dice

Look at the forest (collective), not the tree (individual). Don't think that this work installed in front of the station is a dice just by looking at it from a distance; please take a closer look. You see, they really are dice.

1972年、東京都保谷市(現・西東京市)生まれ。1996年、多摩美術大学デザイン科グラフィックデザイン専攻卒業。2001年頃より既製品を利用した反復・増殖傾向の作品を発表している。好きな事／路傍の石採集・コケ鑑賞など。好きな有名人／岡村孝子。

西荻たんけん隊
nishiogitankentai

ジャンル 街歩き
日 程 11/3(火・祝)・15(日)・23(月・祝)
会 場 集合:西荻窪駅改札
解散:善福寺公園上池

西荻を再発見する街歩きコースを作成・開発するチーム。

協力:お散歩の会(杉並)

西荻・善福寺の不思議スポットを訪ねて

住み慣れた街角でも、少し見方を変えて歩けば、きっと驚きが見つかります。西荻窪から善福寺池にかけての「これなあに？」皆で歩きながら今まで気付かなかった不思議スポットを探す旅に皆様をお連れします。

Journey to the Mystery spots of Zenpukuji Temple in Nishiogi

Even on familiar street corners, you can surely find surprises if you walk with a slightly different perspective. Walking from Nishi-Ogikubo to Zenpukuji Pond, ask yourself "What is this?" Walking together, we will take you on a journey to find mystery spots you had never previously noticed.

ビッグ☆ザッパーズ

Big☆Zappers

ジャンル ダンスと演劇　日 程 11/7(土)・8(日)　会 場 桃井第四小学校 図工室

寝る子を起こす人

「ドタドタドタ」
足並みそろっていませんよ
さわがないでくださいな
静かに寝ているとこなのに…

Person who wakes a sleeping child

“Stomp, stomp, stomp”
Your feet are out of line
Please don’t make a noise
You’ll wake the sleeping child…

ビッグ☆ザッパーズとは、ダンスと演劇を織り交ぜた真面目な集団。結成11ヶ月。
松元夢子＝東京乾電池劇団員。趣味、読書と登山。
江積志織＝振付家、ダンサー。上原尚美に師事。彩のくに創作舞踊団員。
松元日奈子＝ダンサー。彩のくに創作舞踊団員。

善福寺公園と同じテーマの作品が、公園と学校をつなぎます。

佐々木 樹

Miki SASAKI

12

ジャンル 詩・インスタレーション　日 程 11/3(火・祝)～11/23(月・祝)
会 場 杉並区立桃井第四小学校 西昇降口間・体育館間の渡り廊下

<わたしたちの光彩>｜善福寺公園にて／小学生の場合(2020)

帆布、インク、メディウム、グロッシーペーパー

<Specific colors>｜Zenpukuji Park／Elementary school(2020)

Sailcloth, ink, medium, glossy paper

2.5 architects(森藤 文華+葛 沁芸)

2.5 architects(Fumika Morito+Shingei Katsu)

23

ジャンル インスタレーション　日 程 11/3(火・祝)～11/23(月・祝)
会 場 杉並区立桃井第四小学校 プールサイド

Signal

布・糸・他

Signal

Cloth, string, etc.

学校との協働

Collaboration with School

桃四コミュニティスクールでのワークショップやトロールの森鑑賞授業、おでかけトロールの設置協力など、トロールの森と学校や地域との新たな協働の形。

ワークショップ

善福寺公園の空間展示作品の一部や学校での展示作品作りに子供たちが参加。また校庭でパフォーマンスを披露。

A 宮寄浩(ボムライ ウエスト)　5 善福寺鎮守ノ森遺跡
B 佐々木 樹　12 <わたしたちの光彩>｜善福寺公園にて／小学生の場合(2020)
C 久木田 茜　21 文を編む
D ぜんぶくトリヲ　B いのちのオンパレード 大酒のみ
E アトリエそら+　F マイ本棚を巡る冒険 第4巻
F RITENUTObytac　7 衣sm ワークショップとファッションショー
ショー音楽提供：EchoPark

A

B

C

D

E

F

トロールの森 鑑賞授業

11月14日(土)に行われた「トロールの森鑑賞授業」では、作家から子供たちへの問いかけが載っている「見つけたシート」を手に作品を鑑賞。山梨由理、さくら・アリスほかアーティストが参加。

おでかけトロール 設置作業

秋の《おでかけトロール》(P21)の設置にあたっては、桃四コミュニティスクールの保護者も活躍。

事務局の取り組み Other Activities

作家との交流企画や情報発信、新型コロナ対策まで

アーティスト・デイ

コロナ禍にあって、例年開催していたアートツアーは密になるリスクがあったため中止。かわって11月3日（火・祝）と23日（月・祝）を「アーティスト・デイ」とし、作家が作品付近に待機し、訪れた人に自作を紹介しました。

インフォメーション

野外ステージ前にインフォメーションブースを設置。会期中の日曜・祝日のほか、鑑賞授業が開催された11月14日（土）にオープンし、トロールの森の情報発信基地としました。また、アルコール消毒液や非接触体温計を常備。自宅で0円均一（P23）を実施した人に、記念のコインもプレゼントしました。

トロールグッズ

トロールのロゴの入った2種類の缶バッジを用意し、カンパを呼びかけました。

新型コロナ対策

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、準備段階から会期終了までさまざまな施策を講じました。

- 新型コロナウイルス感染拡大防止マニュアルの策定
- 事務局の会議や、公募アーティストの面談、キックオフとなる出展者全体会議などはオンラインで実施
- 三密回避をはじめ、感染防止を呼びかけるポスターを公園の出入口などに掲示
- 作品に触らないよう呼びかける注意を記載したポールを作品周囲に配置
- スタッフの検温を実施
- 身体表現の作家は、パフォーマンス時にマスクを着用
- 作家インタビューを動画で閲覧するQRコードをキャプションに用意
- 観客にもマスクの装着や会話禁止を呼びかけたほか、観客席の間隔をあけ、立ち見の位置も明示
- まちなか公演では入場時の手指の消毒や検温を実施し、入場者の連絡先を把握、換気を徹底

広報 Publicity

「トロールの森2020」広報ツールと掲載誌紙

広報ツール

フライヤー

リーフレット

のぼり

ホームページ

トロールの森 公式Webサイト

youtubeでのアーティスト紹介動画

掲載誌紙

『東京新聞夕刊広告』（2020.11.9 掲載）

『東京人』2020年12月号「CloseupTOKYO」欄

『中央線が好きだ。』vol.30（2020.10.5 発行）「NEWS&TOPICS」

月刊『散歩の達人』11月号「祭り＆イベントカレンダー」
読売新聞（2020.11.13 掲載）イベント情報　等

Column 芸術作品と衣服の共作撮影

11月20日（金）、RITENUTObytacさんの企画で、芸術作品から溢れ出るエネルギーと衣服をコラボした撮影会を実施しました。たとえば、中村知嗣さんの作品に登場するモデルが着ているのは、作品の青く塗られた棕櫚に合わせ、ブルーのレジャーシートを使い、鉄パイプに合わせて、シルバーの歯止めをレジャーシートに打ち付け、リングでつないだドレス。なお、中尾紫香さんの作品とともに撮った写真は、VOGUE ITALIAの公式サイト、PHOTOVOGUEに認定選出され、掲載されました。

Photo by Thom Yoshida

SNS上で見つけたコメント

Comments Found on Social Media

TwitterやFacebook、InstagramなどSNSには、「トロールの森2020」のコメントがいっぱい！

非日常的な
アートの存在が、
日常的な風景の存在感を
際立たせる。

自然の中に
点在する野外アート。
おもしろ発見です。

善福寺公園や西荻の
あちらこちらに掲げられた
子どもたちの作品も主役のひとつ。
ベニヤ板に寝転がって
型を取り好きに塗りたくる。
芸術的な「分身」でもあるね。

どの作品も魅力的で
皆でたくさん
「キヨトン」を体験し、
街における
アートの価値を
再確認出来ました。

久しぶりのアートツアーは、西荻窪です！
コビトたちがいるにちがいない。
見えないけど。
shinoringringさん（2020.11.7の投稿より）

「トロールの森」にはこれまでにも何度も足を運んでいるのだが、これまでの印象は薄め。（略）自然といっても都市の公園だから、あくまでコントロールされた自然であって、そういう意味では造園工がアーティストに完勝していたとも言える。ただ、今回は「これはいいな」と思える作品が何点かあって、もしかするとこの企画は年々パワーアップしているのかも？と思った。そのひとつ、「自然的距離」（中尾紫香）。つまり、ソーシャル・ディスタンスならぬナチュラル・ディスタンス。樹木の間隔というのはもともとナチュラルなディスタンス以外にありえないわけだが、木々の間に公園の間伐材を詰めて、わざわざ「密」な木の壁を作り出している。人間が離れるなら、木は接近しよう、みたいなおかしさがある。もうひとつ、「ウォーターワールド」（栗田昇）。善福寺池の片隅に水車と噴水が設置されている。水車はくるくる回っているし、噴水からは水が噴き出ているのだが、電力等の動力源を用いず、高いところから低いところへ向かう水の流れだけでこれを実現している。現代アートという以上に匠の技。デザインの力。

【ブログ】CLASSICA - What's New! 2020.11.24のエントリーより）

初めてみにきた。
なにこれ、いいぢゃん。

今年はCOVID-19の影響もあり、
触れて楽しむ（と思われる）作品も
お触り禁止なのは残念。
準備中の区画もある。
ま、ここは毎回ゆる〜い空間なの
それも楽しむのです。

遺跡が発見されたよ、と。
どれどれと見に行く。
善福寺公園内のアート作品でした。
今年のトロールの森も楽しいです。

トロールの森2020最終日
早い〜 もう終わっちゃうの
moyokoartさん
（2020.11.23の投稿より）

いろんな作品がありましたが、今年はなんとなく「公園」にあって自然な感じがする。子供だったら、つい戯れてしまうような、そういう作品が好きだなと思いながら見ていました。

【ブログ】
空飛ぶ色いろnatsuno07
（2020.11.25のエントリーより）

近場で好きなイベント。
作品によってはかなり前衛的で、
そこはかとなく「森の悪ふざけ」。
今年は車輪転がしながら
「疫病退散」って叫ぶ、
デ・キリコの悪ふざけみたいな
人もいて良かった。

トロールの森にこんな展示も
あったので書いてきました。
asagaya_naruto_onoさん
（2020.11.19の投稿より）

パンデミックにもかかわらず
イベントを続けてきた主催者
の気概に敬意を表し、来年は
20周年を堂々と迎えられます
ように。

Saluons la pugnacite de ses organisateurs qui ont maintenu l'evenement malgre la pandemie et souhaitons-leur bonne chance pour celebrer glorieusement et sans entrave son 20e anniversaire l'annee prochaine!

【Facebook】
L'Ecole des Artistes
（2020.11.24のエントリーより）

善福寺公園は、
トロールの森の時期になると
中野の哲学堂公園みたいな
景観になる気がする。

池のそばにあったこのオブジェ、
子どもたちがひとりずつ階段を登って
キラキラしたのを手でめくって
風景を見た瞬間、「わあ！」みたいな
嬉しそうな顔つきになってた。
おねえさんが子どもたちに
紙の冠を授けていました。

ぼかぼかと穏やかで
贅沢な時間を過ごしています。
水車の水音、
耳をすませるとちりちりとベル音、
鳥のさえずり。
対岸にはきらきら
彩られたオブジェ、
水面切る水鳥。
平和な昼さがり。

この時期にはいつも
美術展示があるなあ
と思っていたら、
トロールの森という
イベントだったのです。

今年のテーマは「キヨトン Bewilderment」。例えば西荻窪駅北口に展示された、この「National●Dice」と称する作品。「木を見て森を見ず」ということわざがあるが、遠くから「森（全体）」を見ても、接近して「木（個）」を見ても、サイコロ。まさに「キヨトン」だ。

【Facebook】
What's Nishiogi（2020.11.24のエントリーより）

ぐるぐるに落ち葉
hirannyさん
（2020.11.18の投稿より）

秋晴れの
気持ち良い今日は、
トロールの森を見に行く。
西荻茶道部の
野点のしつらえ、
素敵だったな。

遠目から
人が座ってる？
と思って、
近づいたら…w

東京で子供と楽しめる
アートイベント！トロール
の森2020は参加型で
おすすめ！

【ブログ】
マダムゆりこの東京ワンダーランド
（2020.11.16のエントリーより）

ももしのおでかけトロール設置協力（順不同）

関東バス株式会社（西荻窪北口バス停）
JR西荻窪駅
Daily Table KINOKUNIYA 西荻窪駅店
都立善福寺公園
バルタザール
夢飯 Mu-Hung
茶舗あすか
J:COM 西荻窪店
glass工房602
blue water flowers
藤の木
SOFA
タスカフェ
大洋興業株式会社
文具 ふじのき
市海不動産
旅の本屋 のまど
木下歯科医院
フジクリーニング
galerie non
川崎様
Tipi Arbre
MINAMIDO'
café monami
Boite
伊勢屋美術
魚多
野澤写真室
上州屋酒店
そば処 田中屋
サカエ塗装店
TAGUCHI BAKERY
ブルク
道具屋 慈光
Northwest-antiques
かがやき亭
モクタテ駱駝
石村硝子
BAHAR
葉地
珈琲店 物豆奇
LEI LEI
ヘアサロン 十和田
今野書店
あめつち
木土藍楽
ゆきすきのくに
仙遊洞
骨董玩具 とりとり
器カフェ 棗
ほうぼう屋
足道楽
三井クリーニング

トロールの森実行委員会 事務局スタッフ

黒野 裕一郎　CHRONO Yuichiro
鈴木 利矢子　SUZUKI Riyako
高城 佐知子　TAKAGI Sachiko
高橋 千佳子　TAKAHASHI Chikako
冨永 一美　TOMINAGA Kazumi
野田 栄一　NODA Eiichi
早内 佳子　HAYAUCHI Yoshiko
村松 眞千子　MURAMATSU Machiko
本永 安芸夫　MOTONAGA Akio
吉田 明子　YOSHIDA Akiko

トロールの森2020 作品集

発　行　トロールの森実行委員会
〒167-0023 東京都杉並区上井草4-6-2（野田方）
mail：trolls.in.the.park@gmail.com
編　集　高城 佐知子
翻　訳　Jaime Humphreys
デザイン　高島 亮三
発 行 日　2021年2月
©Copyright 2021 Trolls in the Park Organizing Committee

Trolls in the Park 2020